

検査情報月報



2013
2013
10 月

横浜市衛生研究所

平成25年10月号 目次

【トピックス】

平成25年度 医動物・種類同定検査のまとめ(7~9月)	1
残留農薬検査(その1)	3
魚介類中の動物用医薬品検査結果(その1)	5

【感染症発生動向調査】

感染症発生動向調査委員会報告 平成25年9月	6
------------------------------	---

【情報提供】

衛生研究所WEBページ情報(平成25年9月分)	10
-------------------------------	----

平成25年度 医動物・種類同定検査のまとめ(7～9月)

医動物担当では、人の健康を害したり、人に不快感を与える昆虫、ダニ、寄生虫等の試験・調査・研究を行っています。

その中の一つとして、市民、各区福祉保健センター、各市場検査所、事業者などの依頼を受け、昆虫類を中心とした種類同定検査を行っています。昆虫類の種類を同定することによって、発生源、発生時期、人に対する害などが分かるため、効果的な対策を立てることにつながります。平成25年7月から9月の種類同定検査件数は、9件でした。内訳は昆虫類4件(コウチュウ目1件、ハチ目3件)、その他の節足動物5件(クモ目2件、ダニ目2件、ムカデ綱1件)でした。

相談内容・発生状況等	写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態・その他
夜間、畳の上をはっていた	 成虫、茶褐色、約4mm	アリマキモドキ科の一種 (コウチュウ目)	日本には小型種が多い。動作は敏しょうで活発に活動する。川辺、荒地の石の下、ゴミの下、草間、葉上などに多くの種が生息する。
木造住宅内の浴室周辺にアリがみられる	 働きアリ、褐色、約1.5mm	サクラアリ (ハチ目)	日の当たる乾燥した石下、落葉層、倒木内などに巣を造る。羽アリの飛出は10～11月。
浴室からアリが出てきた	 働きアリ、黒褐色、約6mm	アシナガアリ (ハチ目)	平地から山地までの林縁、林内の土中や石下に生息する。普通種で、日本に広く分布する。
木造住宅内で広くアリがみられる	 働きアリ、茶褐色、約1.5mm	ヒメアリ (ハチ目)	人家周辺の石下や枯れ枝の芯に孔を開けて巣をつくる。わずかな隙間から屋内に入り、砂糖、菓子類、乾肉などを食害する。梅雨期になると、家の中の隙間を巣にすることもある。
自宅でクモをみつけた	 成体、茶褐色、約8mm	ヒラタグモ (クモ目)	家の周囲や壁などの隅に白色円盤状の巣を作る。巣の周囲には受信糸をひき、それに触れた昆虫を捕まえる。夜間活動性で1年中出現する。

相談内容・発生状況等	写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態・その他
店舗内の机上で虫を発見した	 成体、黒褐色、約6mm	アリゲモの一種 (クモ目)	木の葉の上や地上などを徘徊する。体が細長く一見アリのように見える。
ベランダの手すりに多数の赤いダニがみられた	 成体、淡赤色、0.5mm	ハダニ類の一種 (ダニ目)	ハダニ類は植物寄生性で果樹、野菜、花などの農作物の害虫となるものが多い。一般に年間の発生数が多く、増殖率は高い。
左上腹部に虫体が付着していた	 成虫、黒色、約4mm	マダニ科の一種 (ダニ目)	体は大型で、成虫は数 mm 以上、吸血後には1cm を超えるものも少なくない。角化の強い背板をもつ。発育環のすべてのステージが寄生吸血性である。
家屋内で虫を発見した	 成体、暗褐色、約20mm	ムカデ類の一種 (ムカデ綱)	体が細長く多くの胴環節と脚をもつ。歩行は迅速な種が多く、生きた小動物を捕食する。がれき、朽木、落葉などが堆積する中に生息する。

【 検査研究課 医動物担当 】

残留農薬検査(その1)

当所では、横浜市内に流通する農産物等の食品に残留する農薬の検査を行っています。平成22年度より農産物当たりの検査項目数を追加し、検査体制を一層強化しています。

今回は、平成25年4月から9月までに食品専門監視班より搬入された農産物等の検査結果を報告します。

◇ 市内産農産物

8月に搬入されたなす(5検体)、日本なし(3検体)及びぶどう(2検体)、9月に搬入されたきゅうり(1検体)、こまつな(4検体)、さつまいも(3検体)及びなす(5検体)の計23検体について検査を行いました。これらの結果を表1に示しました。その結果、こまつな3検体、日本なし3検体及びぶどう2検体から計12項目の農薬が検出されました。ただし、残留農薬の基準値を超えるものはありませんでした。

クレソキシムメチル、クロルフェナピル、フェンプロパトリン及びペルメトリンについては平成21～24年度に検査を行った日本なし及びぶどうからも検出されており、よく使用されている農薬であると考えられました(農薬の概要については下記を参考にしてください。)

検査項目及び検出限界については表2に示しました。

【農薬解説】

クレソキシムメチル

『ストロビー』などの商品名で一般的に販売されている殺菌剤です。特にうどんこ病、黒星病、べと病などに対して効果があるとされています。

クロルフェナピル

『コテツ』などの商品名で一般的に販売されている殺虫剤です。多くの野菜に適用があり、従来の殺虫剤に耐性がある害虫に対しても効果があります。

フェンプロパトリン

『ロディー』などの商品名で一般的に販売されている殺虫剤です。広範囲の害虫(特にハダニ類)に対して有効的に作用する農薬です。

ペルメトリン

『アディオン』などの商品名で一般的に販売されている殺虫剤です。茶、果樹、野菜などの主要害虫の防除に使用される農薬です。

表1 残留農薬検査結果

(H25年4月～H25年9月)

農産物	産地	検査 検体数	農薬検出 検体数	検出農薬名	検出値 (ppm)	基準値 (ppm)
市内産農産物						
きゅうり	横浜市	1	0			
こまつな	横浜市	4	1	イミダクロプリド	0.01	5
			2	クロルフェナピル	0.03、2.09	5
さつまいも	横浜市	3	0			
なす	横浜市	10	0			
日本なし	横浜市	3	1	アセタミプリド	0.01	2
			2	クレソキシムメチル	0.03、0.53	5
			2	クロチアニジン	0.02、0.03	1
			1	クロルフェナピル	0.09	1
			1	チアメキサム	0.05	1
			1	テブコナゾール	0.04	5
			1	デルタメトリン	0.02	0.5
			2	フェンプロパトリン	0.06、0.24	5
			1	ブプロフェジン	0.09	2
			1	ペルメトリン	0.04	2.0
ぶどう	横浜市	2	1	イミダクロプリド	0.02	3
			1	クレソキシムメチル	0.03	15
			1	クロルフェナピル	0.02	5
			1	フルバリネート	0.01	2.0
			1	ペルメトリン	0.01	5.0

表2 農薬の検査項目及び検出限界(114項目)

農薬名	検出限界 (ppm)	農薬名	検出限界 (ppm)	農薬名	検出限界 (ppm)
BHC(α、β、γ及びδの和)	0.005	シハロトリン	0.01	フェニトロチオン	0.01
DDT(DDE、DDD及びDDTの和※)	0.005	シフルトリン	0.01	フェンクロルホス	0.01
EPN	0.01	シペルメトリン	0.01	フェンスルホチオン	0.01
アクリナトリン	0.01	ジメチルビンホス	0.01	フェンチオン	0.01
アセタミプリド	0.01	ジメトエート	0.01	フェントエート	0.01
アゾキシストロビン	0.01	シメトリン	0.01	フェンバレレート	0.01
アルドリン及びディルドリン	0.005	スルプロホス	0.01	フェンピロキシメート	0.01
イソフェンホス	0.01	ダイアジノン	0.01	フェンプロパトリン	0.01
イソプロカルブ	0.01	チアクロプリド	0.01	ブタクロール	0.01
イプロベンホス	0.01	チアトキサム	0.01	ブタミホス	0.01
イミダクロプリド	0.01	チオベンカルブ	0.01	ブプロフェジン	0.01
インドキサカルブ	0.01	チフルザミド	0.01	フルジオキソニル	0.01
エスプロカルブ	0.01	テトラクロルビンホス	0.01	フルシトリネート	0.01
エチオン	0.01	テトラコナゾール	0.01	フルトラニル	0.01
エトプロホス	0.005	テトラジホン	0.01	フルバリネート	0.01
エトリムホス	0.01	テブコナゾール	0.01	フルフェノクスロン	0.01
エンドスルファン(α及びβの和)	0.005	テブフェノジド	0.01	プロシミドン	0.01
エンドリン	0.005	テブフェンピラド	0.01	プロチオホス	0.01
オキサミル	0.01	テフルトリン	0.01	プロパホス	0.01
カズサホス	0.01	テフルベンズロン	0.01	プロピザミド	0.01
カフェンストロール	0.01	デルタメトリン及びトラロメトリン	0.01	プロメカルブ	0.01
カルバリル	0.01	テルブホス	0.005	プロモプロピレート	0.01
クレソキシムメチル	0.01	トリアジメノール	0.01	ヘキサコナゾール	0.01
クロチアニジン	0.01	トリアジメホン	0.01	ヘキサフルムロン	0.01
クロマフェノジド	0.01	トルクロホスメチル	0.01	ヘプタコル(エポキシトを含む)	0.005
クロルピリホス	0.01	パラチオン	0.01	ペルメトリン	0.01
クロルピリホスメチル	0.01	パラチオンメチル	0.01	ペンコナゾール	0.01
クロルフェナピル	0.01	ハルフェンプロックス	0.01	ホサロン	0.01
クロルフェンゾン	0.01	ピフェントリン	0.01	ボスカリド	0.01
クロルフェンビンホス	0.01	ピペロホス	0.01	マラチオン	0.01
クロルプロファム	0.01	ピラクロストロビン	0.01	ミクロブタニル	0.01
クロロクスロン	0.01	ピリダフェンチオン	0.01	メチダチオン	0.01
シアノフェンホス	0.01	ピリブチカルブ	0.01	メキシフェノジド	0.01
シアノホス	0.01	ピリプロキシフェン	0.01	メトラクロール	0.01
ジオキサベンゾホス	0.01	ピリミノバックメチル	0.01	メビンホス	0.01
ジクロフェンチオン	0.01	ピリミホスメチル	0.01	リニューロン	0.01
ジクロラン	0.01	ピリメタニル	0.01	リンデン(γ-BHC)	0.002
ジコホール	0.01	フェナリモル	0.01	ルフェヌロン	0.01

※ DDTはp,p'-DDE、p,p'-DDD、o,p'-DDT及びp,p'-DDTの和

※参考文献

- ・社団法人日本植物防疫協会，農薬ハンドブック2011年版
- ・農薬残留分析法研究班，最新農薬の残留分析法(改訂版)

【 検査研究課 微量汚染物担当 】

魚介類中の動物用医薬品検査結果(その1)



平成25年8月に食品専門監視班が収去した、市内に流通する、うなぎ目魚類(うなぎ4件)、さけ目魚類(銀鮭1件、サーモントラウト1件)、すずき目魚類(ぶり1件)、その他の魚類(あゆ1件)及び甲殻類(えび2件)について、抗生物質のテトラサイクリン系(3項目)及びクロラムフェニコール、並びに合成抗菌剤のニトロフラン類(3項目)及びエンロフロキサシン等(28項目)について計35項目の検査を行いました。また、うなぎ目魚類については合成抗菌剤のマラカイトグリーン類(2項目)についても検査を行いました。その結果、表に示すとおりすべて不検出でした。

表 抗生物質、合成抗菌剤の検査結果及び検出限界

項目名	検査結果					検出限界
	うなぎ目	さけ目	すずき目	その他魚類	甲殻類	
【抗生物質】						
オキシテトラサイクリン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.02
クロルテトラサイクリン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.03
テトラサイクリン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.02
クロラムフェニコール	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.0005
【合成抗菌剤】						
マラカイトグリーン	N.D.	-	-	-	-	0.002
ロイコマラカイトグリーン	N.D.	-	-	-	-	0.002
ニトロフラントイン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.001
フラゾリドン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.001
フラルタドン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.001
エンロフロキサシン(シプロフロキサシンを含む)	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.005
オキシリニック酸	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
オフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
オルビフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
オルメトプリム	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.02
クロピドール	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
サラフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
ジフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファキノキサリン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファジアジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファジミジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファジメトキシ	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファドキシ	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファピリジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファメトキサゾール	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファメトキシピリダジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファメラジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファモノメトキシ	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
ダノフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
チアンフェニコール	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
トリメトプリム	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.02
ナリジクス酸	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
ノルフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
ピリメタミン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.02
ピロミド酸	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
フルメキン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
フロルフェニコール	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
マルボフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01

単位:ppm

【 検査研究課 微量汚染物担当 】

感染症発生動向調査委員会報告 9月

《今月のトピックス》

- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が続いています。
- 手足口病の報告が続いています。

全数把握疾患

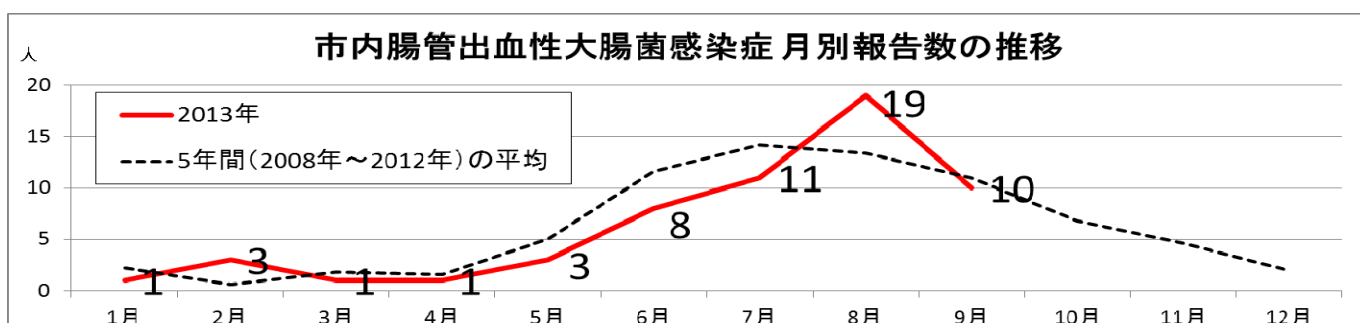
9月期に報告された全数把握疾患

腸管出血性大腸菌感染症	10件	アメーバ赤痢	1件
腸チフス	1件	クロイツフェルト・ヤコブ病	1件
レジオネラ症	5件	風しん	2件

＜腸管出血性大腸菌感染症＞

10件(O157 VT1VT2 6件、O157 VT2 2件、O26 VT1 1件、O103 VT1 1件)の報告がありました。このうち、4件では同居家族内で感染者が確認されましたが、感染原因は調査中です。先月は過去5年間の平均よりも報告数が上回りましたが、今月は過去5年間の平均(11.0)とほぼ同様です。本症は例年これからの季節にも報告されるので注意が必要です。主な感染経路は①菌に汚染された飲食物を摂取する、②患者の糞便で汚染されたものを口にする、であり、野菜などの食品を良く洗い、中心部まで加熱(75℃で1分間以上)することが重要です。さらに、しっかりした手洗いが重要です。症状が出た際には、自分の判断で下痢止めを飲まないで、早めに医療機関を受診しましょう。詳しくは、[「O157に注意しましょう」](#)(衛生研究所)をご参照ください。

◆[横浜市感染症臨時情報](#)(衛生研究所)



＜腸チフス＞ 1件の報告がありました。国内での経口感染が推定されています。

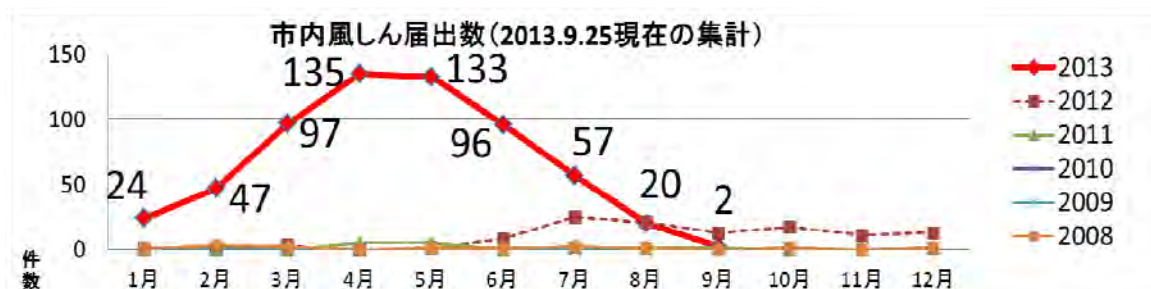
＜レジオネラ症＞肺炎型 5件の報告がありました。1件は大韓民国、他はすべて国内での感染で、感染経路等不明でした。

＜アメーバ赤痢＞腸管アメーバ症1件の報告があり、国内での異性間性的接触が推定されています。

＜クロイツフェルト・ヤコブ病＞古典型CJDの報告が1件ありました。

＜風しん＞ 2件の報告がありました。どちらも男性で、予防接種歴は確認できませんでした。現在報告数は減少傾向ですが、先天性風しん症候群予防のため、妊娠を予定・希望している女性は予防接種を受けましょう。予防接種の助成が実施されています。

◆[横浜市の風しん予防接種助成の詳細](#)(保健所)



定点把握疾患

平成25年8月26日から平成25年9月22日まで(平成25年第35週から平成25年第38週まで。ただし、性感染症については平成25年8月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

平成25年 週一月日対照表

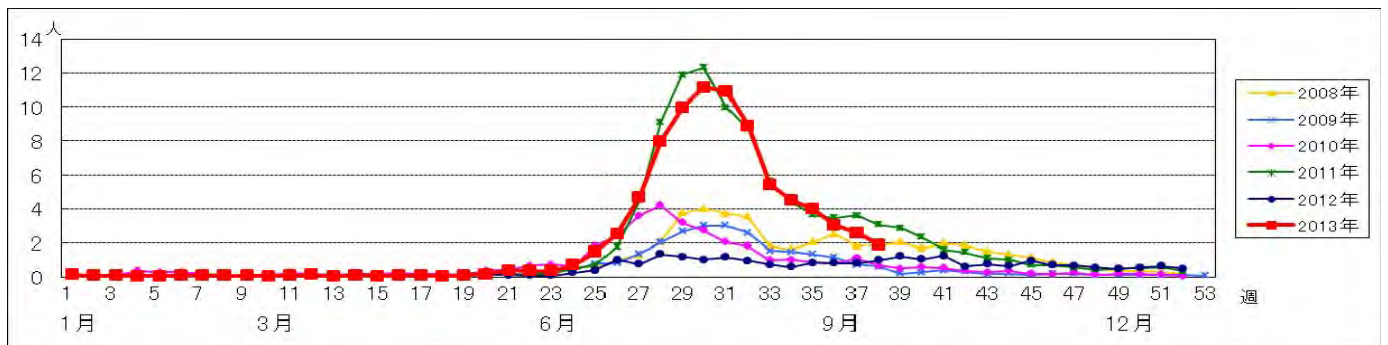
第35週	8月26日～ 9月 1日
第36週	9月 2日～ 9月 8日
第37週	9月 9日～ 9月15日
第38週	9月16日～ 9月22日

1 患者定点からの情報

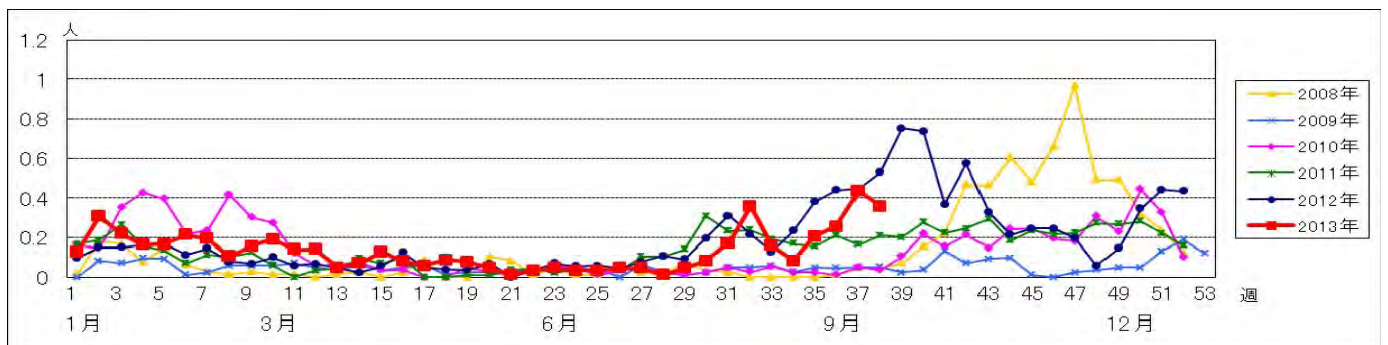
市内の患者定点は、小児科定点:92か所、内科定点:60か所、眼科定点:19か所、性感染症定点:27か所、基幹(病院)定点:4か所の計202か所です。なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の11感染症を報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計152定点から報告されます。

<手足口病> 第38週は市全体で定点あたり1.88となり、警報レベル終息基準値(2.00)を下回りました。ただ、磯子区5.67、神奈川区4.67、緑区3.60、金沢区2.60と4区で依然として警報レベル終息基準値を上回っています。原因ウイルスでは今回の流行当初から、全国でCA6が多く検出されており、現在も同様な傾向です。市内の病原体定点からもCA6が多く検出されています。CA6を病原とする手足口病は、水疱がかなり大きく、四肢末端に限局せず、広範囲に認められるといった臨床的特徴があり、罹患1～2か月後の爪甲脱落症も報告されています。感染経路は飛沫感染、接触感染、糞口感染であり、乳幼児における感染予防は手洗いの励行と排泄物の適正な処理が基本です。

◆横浜市感染症臨時情報(衛生研究所)



<RSウイルス感染症> 市全体で第38週0.36とやや増加傾向です。気温の変動が激しくなる季節でもあり、今後の注意が必要です。



<性感染症> 8月は、性器クラミジア感染症は男性が28件、女性が20件でした。性器ヘルペス感染症は男性が11件、女性が10件です。尖圭コンジローマは男性4件、女性が4件でした。淋菌感染症は男性が19件、女性が2件でした。

<基幹定点週報> マイコプラズマ肺炎では第35週0.50、第36週1.00、第37週1.33、第38週2.00とやや漸増傾向です。細菌性髄膜炎は第35週に1件(77歳女性、血液・髄液よりクリプトコッカス検出)報告されました。無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

<基幹定点月報> 8月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症10件、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症1件、薬剤耐性緑膿菌感染症1件が報告されました。薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

【 感染症・疫学情報課 】

2 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:9か所、インフルエンザ(内科)定点:3か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は9か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。また、インフルエンザ定点では特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

<ウイルス検査>

9月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点46件(鼻咽頭ぬぐい液44件、結膜ぬぐい液1件、ふん便1件)、眼科定点1件(眼脂)、基幹定点6件(鼻咽頭ぬぐい液5件、髄液2件、ふん便1件、血清1件)でした。患者の臨床症状別内訳は、小児科定点は上気道炎21人、手足口病9人、下気道炎8人、RSウイルス感染症2人、発疹2人、ヘルパンギーナ1人、咽頭結膜熱1人、胃腸炎1人、アデノウイルス感染症1人、眼科定点は流行性角膜炎1人、基幹定点はインフルエンザ(疑い含む)3人、無菌性髄膜炎2人、頸部リンパ節炎1人でした。

10月9日現在、小児科定点の上気道炎患者2人と下気道炎患者1人からコクサッキーウイルス(以下Cox) B1型、咽頭結膜熱患者1人とアデノウイルス感染症患者1人からアデノウイルス4型、手足口病患者1人からエンテロウイルス71型、上気道炎患者1人からヘルペスウイルス1型、基幹定点のインフルエンザ患者2人からインフルエンザウイルスAH3型、1人からAH1pdm09ウイルスが分離されています。

これ以外に遺伝子検査では、小児科定点の下気道炎患者8人からRSウイルスB型(2人)、RSウイルスB型とライノウイルスの重複(1人)、RSウイルスA型(2人、うち1人はCoxB1型分離)、パラインフルエンザウイルス(以下Para) 1型(1人)、Para4型(1人)、ライノウイルス(1人)、上気道炎患者7人からCoxA2型(2人)、CoxA2型とPara3型の重複(1人)、ライノウイルス(1人)、ライノウイルスとPara4型とエンテロウイルス68型の重複(1人)、エコーウイルス25型(1人)、コロナウイルスOC43型(1人)、手足口病患者5人からCoxA6型(3人)、エコーウイルス6型(2人)、RSウイルス感染症患者2人からRSウイルスA型(1人)、RSウイルスA型とヒューマンボカウイルスの重複(1人)、ヘルパンギーナ患者1人からCoxA10型、発疹患者1人からエコーウイルス(型未同定)の遺伝子が検出されています。

その他の検体は引き続き検査中です。

【 検査研究課 ウイルス担当 】

<細菌検査>

9月の感染性胃腸炎関係の受付は、小児科定点1件、基幹定点から1件、定点以外の医療機関等からは13件あり、腸管出血性大腸菌9件、チフス菌1件が検出されました。

その他の感染症は小児科から5件、基幹病院から1件、その他が5件で、*Legionella pneumophila* と肺炎球菌でした。

(次ページに表)

表 感染症発生動向調査における病原体検査(9月)

感染性胃腸炎

検査年月 定点の区別 件数	9月			2013年1月～9月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
	1	4	13	4	77	64
菌種名						
赤痢菌					2	2
腸管病原性大腸菌					2	
腸管出血性大腸菌			9		1	47
腸管毒素原性大腸菌					2	
チフス菌			1		4	1
パラチフスA菌						2
サルモネラ				1	20	
不検出	1	4	3	3	46	12

その他の感染症

検査年月 定点の区別 件数	9月			2013年1月～9月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
	5	1	5	53	22	138
菌種名						
A群溶血性レンサ球菌	T1			1	1	
	T2			5		
	T4			9		
	T6	1		7		
	T12			4		
	T25			2		
	T28			3		
	T B3264	1		3		
B群溶血性レンサ球菌				1		
G群溶血性レンサ球菌						2
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌					10	
バンコマイシン耐性腸球菌					2	21
<i>Legionella pneumophila</i>			1			3
インフルエンザ菌				1		3
肺炎球菌			2	5	3	21
<i>Neisseria meningitidis</i>						2
黄色ブドウ球菌				2	4	1
結核菌						10
緑膿菌						63
その他		1			2	2
不検出	3	0	2	10	0	10

*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 検査研究課 細菌担当 】

衛生研究所WEBページ情報

(アクセス件数・順位 平成25年8月分、電子メールによる問い合わせ・追加・更新記事 平成25年9月分)

横浜市衛生研究所ホームページ(衛生研究所WEBページ)は、平成10年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報等を提供しています。

今回は、平成25年8月のアクセス件数、アクセス順位及び平成25年9月の電子メールによる問い合わせ、WEB追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数については総務局IT活用推進課から提供されたデータを基に集計しました。

1 利用状況

(1) アクセス件数 (平成25年8月)

平成25年8月の総アクセス数は、180,863件でした。主な内訳は、感染症情報センター73.6%、食品衛生5.6%、保健情報7.3%、検査情報月報4.6%、生活環境衛生2.8%、薬事0.7%でした。

(2) アクセス順位 (平成25年8月)

8月のアクセス順位(表1)

表1 平成25年8月 アクセス順位

は、第1位が「セレウス菌による食中毒について」、第2位が「手足口病について」、第3位が「クロストリジウム-デファイシル感染症について」でした。

順位	タイトル	件数
1	セレウス菌による食中毒について	28,693
2	手足口病について	8,950
3	クロストリジウム-デファイシル感染症について	4,951
4	サルモネラ感染症(食中毒)について	3,278
5	マイコプラズマ肺炎について	3,145
6	B群レンサ球菌(GBS)感染症について	2,979
7	サイトメガロウイルス感染症について	2,962
8	衛生研究所トップページ	2,947
9	ぎょう虫(蟻虫)症について	2,289
10	食品衛生情報	2,205

8月の総アクセス数は、前月とほぼ同数でした。今月の1位の「セレウス菌による食中毒について」は、高知市の学生寮でセレウス菌による食中毒が発生しました。

データ提供:総務局IT活用推進課

また、東京では、国立がん研究センター中央病院で、入院患者13人がセレウス菌に感染し、内2名が死亡したとの報道があり、アクセス数の増加に繋がったと考えられます。2位の「手足口病について」は、8月現在も流行中であり、乳幼児における感染予防として、手洗いの励行と排泄物の適正な処理が基本となります。

また、マイコプラズマ肺炎は、一時の流行はおさまってきておりますが、依然としてアクセス件数は、年間を通じて多くなっています。

厚生労働省のマイコプラズマ肺炎に関するQ&A(一般の人向け) 平成24年10月改訂

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou30/index.html>

「セレウス菌による食中毒について」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/cereus1.html>

「手足口病について」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/handfoot2.html>

「クロストリジウム・ディフィシル感染症について」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/clostridium1.html>

(3) 電子メールによる問い合わせ（平成25年9月）

平成25年9月の問い合わせは、6件でした(表2)。

表2 平成25年9月 電子メールによる問い合わせ

内容	件数	回答部署
HP上の図の複写利用について	1	感染症・疫学情報課
予防接種について	1	感染症・疫学情報課
レストランで提供される食品について	1	感染症・疫学情報課
菌株解析について	1	検査研究課ウイルス担当が回答案作成し、 感疫課から回答
予防接種について	1	感染症・疫学情報課
ペストについて	1	感染症・疫学情報課

2 追加・更新記事（平成25年9月）

平成25年9月に追加・更新した主な記事は、9件でした(表3)。

表3 平成25年9月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
9月 2日	感染症に気をつけよう(9月号)	掲載
9月 2日	ポルトガルのこどもの定期予防接種について	掲載
9月 4日	アイルランドのこどもの定期予防接種について	掲載
9月 4日	平成25年 熱中症情報	掲載
9月 9日	腸管出血性大腸菌(EHEC)感染症について	掲載
9月11日	平成25年 熱中症情報	掲載
9月11日	髄膜炎菌性髄膜炎について	更新
9月19日	平成25年 熱中症情報	掲載
9月26日	平成25年 熱中症情報	掲載

【 感染症・疫学情報課 】